当院で経験した原発性マクログロブリン血症 3 症例における細胞表面抗原の解析

◎井上 雄介[1)]、池亀 彰茂[1)]、多田 智紀[1)]、川西 智子[1)]、徳永 尚樹[1)]、吉田 裕子[1)]、中尾 隆之[1)]
国立大学法人 徳島大学病院 診療支援部 臨床検査技術部門[1)]

【はじめに】リンパ形質細胞性リンパ腫（LPL）は成熟 B リンパ球からなる形質細胞様リンパ球の増殖を特徴とする腫瘍である。骨髄浸潤および IgM 型の M 蛋白を伴う LPL は原発性マクログロブリン血症（WM）と定義される。WM は形態学的特徴からは時に正常リンパ球と鑑別が困難であり、フローサイトメトリー検査（FCM）による解析が有用となる。今回我々は当院で経験した WM 3 症例について表面抗原の解析を行ったので報告する。
【症例】症例 1 は 56 歳男性、M 蛋白精査のため骨髄検査を施行した。骨髄中の B 細胞は形質細胞（PC）抗原である CD38 や CD138 の発現が弱く、CD5、CD10、CD23、CD200 陰性、IgM 陽性を示し、κ 鎖に偏りを認めた。症例 2 は 70 歳男性、貧血精査のため骨髄検査を施行した。骨髄中の B 細胞は CD5、CD23 陰性、IgM、CD184（CXCR4）陽性、CD200 弱陽性、CD10 一部陽性を示し、κ 鎖に偏りを認めた。症例 3 は 88 歳女性、IgM 高値のため、骨髄検査を施行した。骨髄中の B 細胞は CD5、CD10、CD23、CD200 陰性、IgM 陽性、λ 鎖に偏りを認めた。また、CD13 の異常発現を認めた。
【考察】WM の腫瘍細胞は B 細胞系マーカーに陽性であり、通常 CD5、CD10、CD23 は陰性だが、症例 2 では CD10 が一部陽性を示した。CD10 陽性例は濾胞性リンパ腫等と形態学的特徴から鑑別可能であると考えられる。CD200 は 3 症例とも陰性または弱陽性であり、高発現する慢性リンパ性白血病との鑑別に有用となる可能性が示唆された。また、症例 2 では CXCR4 の発現を認めた。WM の約 30%の症例で CXCR4 の活性型変異を有することが報告されており、今後 CXCR4 発現との関連について検討が必要であると思われた。症例 3 では CD13 の異常発現が認められた。CD13 陽性 WM は報告例が少なく、頻度や臨床的意義は不明であり、症例の蓄積が望まれる。
【まとめ】WM の診断には FCM において PC 抗原の発現が弱い腫瘍性 B 細胞を確認することが重要である。また、今回経験した症例では CXCR4 や CD13 等の異常発現を認め、今後症例の蓄積を通して発現頻度や臨床的意義の検討が必要であると思われる。連絡先：088-633-9304